

令和7年度 学校園評価(関係者評価)シート

学校園名

加古川市立義務教育学校両荘みらい学園

1 教育目標

ふるさとを愛し ころ豊かに 学びあうこどもの育成 ～グローバル人材の育成をとおして～

2 基本方針

- (1)めざす(期待する)児童生徒像・・・「自ら考え、行動する児童生徒を育てる」
 (2)めざす学校像・・・「児童生徒のための学校をつくる」
 児童生徒、保護者、地域や教職員にとって魅力ある学校づくりをめざす。
 (3)めざす教師像・・・「児童生徒一人ひとりを大切にする」
 さまざまな課題に適切に対応するために、児童生徒を正しく理解し、情熱あふれる教師を目指す。

3 指導目標

9か年一貫教育「両荘プラン」 9か年で涵養する資質
 3つの両荘コンピテンシー 「知識・創造」「仲間づくり」「自己決定」

9か年で広がる社会性
 3つの活躍の場「学校」「地域」「国際社会」

評価基準

A:できている

B:だいたいできている

C:あまりできていない

D:あまりできていない

E:わからない

| 重点目標 | 評価項目 | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ(関係者評価) | 達成状況 |
|--------------|------------------------|------|---|--|------|
| (1)魅力ある学校づくり | 9か年一貫教育「両荘プラン」 | A | 「ふるさとみらい科」「英語科」など特色ある取組と学習活動の充実を図った。「みとろの丘」との連携や狂言・和太鼓など地域の伝統文化の継承、交流活動など体験活動が充実した。リーダー委員会を中心に、どのステージ、どの学年もが下学年への指示をしていけるように指導した。9か年を意識した授業プランや、児童生徒の育成プランを考えた。 | <ul style="list-style-type: none"> ふるさとみらい科における「みとろの丘」との連携した取組など、交流授業、体験授業が充実している。児童生徒たちは心豊かに育っている。 9か年一貫教育という他の学校にはない取組が魅力である。 地域の伝統文化との継承、ふるさとみらい科、英語科など、特色あるカリキュラムが評価できる。 | A |
| (2)知識創造 | 学習意欲を高めるためのわかる授業づくり | A | 英語でのコミュニケーションが日常的に行えるような様々な場面設定ができた。1,2年生から外国語活動を入れ、主体的に学習に取り組む姿勢(学びに向かう力)や能力の育成に努めた。全教員が年1回の研究授業を行い、グループごとの事後研究を行った。後期教員が前期へののり入れ授業についても積極的に進めた。 | <ul style="list-style-type: none"> 全教員が年度に1回研究授業を行うことは、教員の質の向上にもつながる。また、乗り入れ授業の機会を増やしていき、さらに教員の研修強化をしていただきたい。 1学年からの英語科の指導は非常に評価できる。 先生方の年1回の公開授業や、6年生が3月に行われたまとめのテストなど学習意欲の向上が感じられる取組となっている。 | A |
| (3)仲間づくり | 人間関係の構築、仲間づくり活動の充実 | B | 委員会活動など、自治活動の充実に注力した。特に、9年間のつながりを意識し、縦割り活動の充実を図るなど、各ステージの最高学年がリーダーとなるべく、指示の充実を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> 単学級ではなかなか人間関係の改善は難しいところがあるが、異学年交流や縦割り活動を積極的に行われている点が評価できる。 低学年からの仲間づくりに力を入れた取組を増やしていけば変化が出るのではないかと。 学年が上がるにつれて、友だち、人間関係の相談や悩みが増えていくのでさらに寄り添った対応をお願いしたい。 | B |
| (4)自己決定 | 自律的な生き方と、自ら高める規範意識 | B | 生徒指導では、教員の初動を大切に、丁寧な指導を心がけた。行動の三指針を柱に、TPOをわきまえる行動がとれるよう働きかけた。不登校児童生徒への学習支援について課題があるが、養護教諭や特別支援コーディネーターをうまく機能させて、不登校対策推進に努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> 不登校という課題は0にはならないが、不登校気味の児童生徒をサポートしようとする学校の姿勢を評価 不登校児童生徒、行き渋りの児童生徒の原因を追求して早期解決を図ってほしい。 不登校については、地域連携が必須である。 自分で考えて行動する力を育むことは大切だが、子どもたちの様子に応じた支えも必要に感じる。 | A |
| (5)交流連携 | 公民館連携などを通して、9か年で広がる社会性 | A | 図書館を、異学年交流の場として、休み時間や下校の前などに気軽に立ち寄ることができる場に設定した。オンラインを通して、国際社会と交流し、「小さな社会人」から「社会の一員」への意識を持たせた。公民館と連携し、地域社会の一員としての場づくりを行った。 | <ul style="list-style-type: none"> 公民館連携を通して、子どもたちが生涯学習にスムーズに移行できる土台作りができている。 教育は、地域と学校と保護者の三者が協力して成り立つ。今後も課題を見つけ、放置することなく取り組んでほしい。 地域連携が形として見える化している。図書館教育など評価できる。 | A |